



株式会社 ファイトクローム

〒162-0845

東京都新宿区市谷本村町 2-11

外濠スカイビルディング

2024年11月吉日

報道・出版関係者様 各位

環境配慮型・循環型農業を推進する画期的資材

大気中の窒素を植物に有効利用（バイオスティミュラント）



「エヌキャッチTM」の発売決定のお知らせ

株式会社ファイトクロームはバイオスティミュラント新製品「エヌキャッチ」を2025年2月より販売することを決定いたしました。

「エヌキャッチ」はサトウキビから分離された微生物 Gd*を利用した農業資材です。

*グルコンアセトバクター・ジアゾトロフィカス

Gd は空気中の窒素を植物細胞内の隅々で固定し、利用可能な形に変えることができるバクテリアです。これまでに知られている窒素固定菌とは異なり、植物細胞内にも共生し、植物が窒素を必要とする場所（例えば葉緑体）で窒素を正確に固定します。

酷暑対策、収穫品質、生産性の向上に、育苗処理でも葉面散布でも利用可能で、窒素不足の心配な時期に適量の窒素をサポートします。

「エヌキャッチ」とは？

－ 大気中の窒素を植物に有効利用 －

【エヌキャッチTMの特長】

- 有効菌 Gd は根、莖、気孔を通じて植物体内に入ります。
- Gd は植物と共生関係を築き、窒素の供給をサポートします。
- 窒素が不足になった時に、効果を示す新資材です。
- 育苗期や生育初期に処理して1シーズン効果を発揮するので、省力的です。
- 窒素不足による水稻の乳白、未熟粒対策に利用できます。



公式マスコット チッピーくん

【使用方法】 葉面散布、種子浸漬、水耕栽培溶液など

* 農薬などの散布水量に応じて本品を希釈

* 特定の農薬を除き、農薬との混用も可能です

【施用時期】 移植前（苗に散布）、移植後の生育期（ドローン散布も可能）

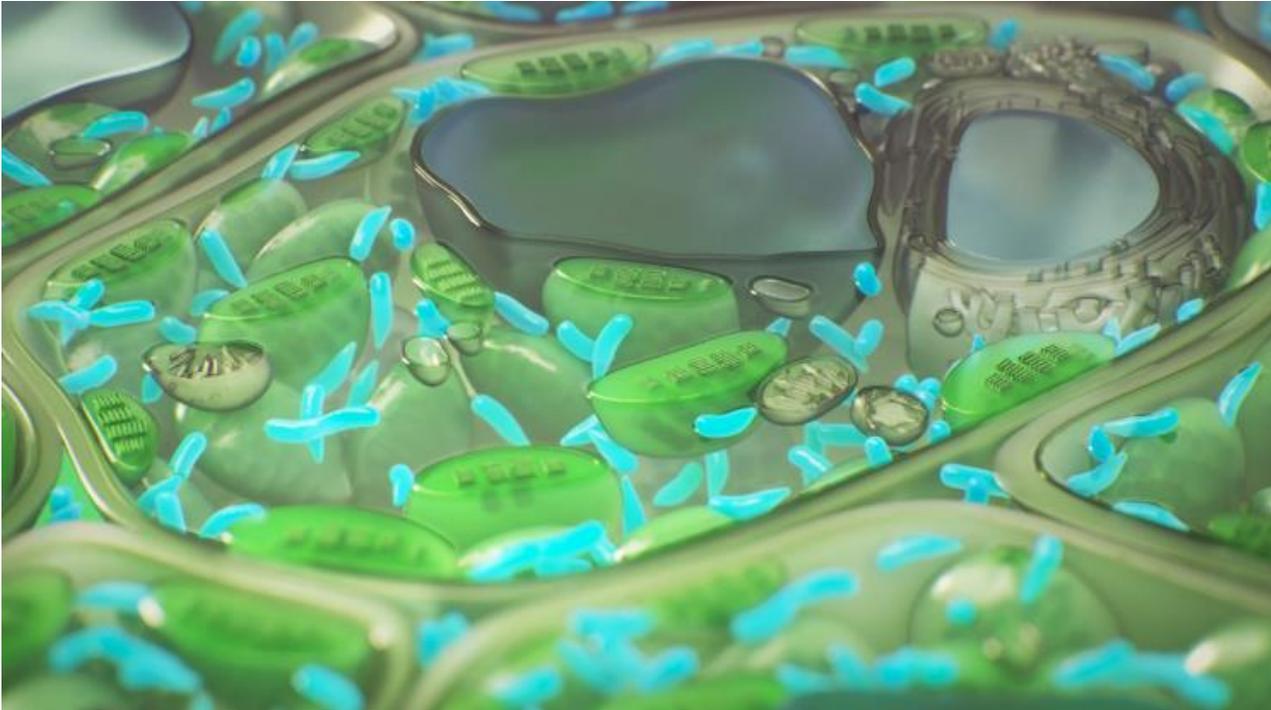
【製品仕様】 6.25g 小箱入り（標準施用で50a分）

【希望小売価格】 7,500円（6.25g入り製品：50a分）

【エヌキャッチの国内導入について】

エヌキャッチは、英国アゾティック・テクノロジーズ・リミテッドが開発した農業用微生物資材です。海外では「Envita®」のブランド名で既にグローバル展開されています。株式会社ファイトクロームとアゾティック社は日本国内での本製品の取り扱いについて売買契約を締結しており、日本の作物での本製品の利用・普及について協業で準備を進めてまいりました。

【植物細胞に共生する Gd】（イメージ）



【期待されるエヌキャッチのメリット】

- 従来利用されてきた根粒菌はマメ科作物のみに共生可能です。エヌキャッチはあらゆる作物（非マメ科）にも定着可能です。また、窒素固定菌のほとんどは根に共生する好気性菌タイプです。したがって水稲などの水没環境で栽培される作物には利用できませんでした。エヌキャッチは葉から植物細胞に侵入できるので、水稲にも利用可能です。
- エヌキャッチは、植物細胞の内部に定着するので、植物の細胞分裂と同時に植物体全体に広がっていきます。生育初期に処理しても栽培後半まで植物のあらゆる部位で窒素固定を続けます。拡散性の悪い微生物資材は、窒素不足になってから処理をする必要がありますが、エヌキャッチは早期の処理が可能なので、コストや時間のかかる大掛かりな散布が不要になり、大変省力的です。
- 近年の水稲の未熟粒や乳白は、高温によって窒素が想定外に消費され、後半期に窒素不足が起こっている可能性があります。このため穂肥などの必要性が見直されていますが、過剰量の追肥は味の低下のリスクを負うこととなります。エヌキャッチは不足した窒素分のみを微生物がサポートしてくれるので、品質向上の有能なサポーターとして期待できます。
- 農水省が策定した『みどりの食糧システム戦略』において 2050 年までに化学肥料を 30%削減するという目標が掲げられています。エヌキャッチがその目標達成に貢献できる資材となることを願っています。

【関連資料】

- YouTube 製品説明 <https://youtu.be/BM2CjhGlsrO>



- 製品チラシ https://www.phyto.jp/wp-content/uploads/2024/11/A4flyer_N-Catch.pdf



<株式会社ファイトクローム 会社概要>

【代表者】 内田 啓祐（うちだ けいすけ） 代表取締役社長

【設立】 2002年1月

【資本金】 6,275万円



PHYTOCHROME INC

<本件に関するお問い合わせ>

株式会社ファイトクローム

マーケティング部 須藤までお願いいたします。

TEL (03) 4316-4920

FAX (03) 4316-4921

E-mail : sudo@phyto.jp